

令和元年度第3回三重県少子化対策推進県民会議計画推進部会 議事概要

日時：令和元年10月4日（金）13:00～15:00

場所：三重県栄町庁舎 第51会議室

【出席委員（敬称略）】

岩上真人、落合知、小畑英慎、倉田幸則、小松貞則、坂井治美、杉浦礼子（部会長）、野村豊樹、山田朋子

1 要旨

会議では、次期子どもスマイルプランにかかる「ライフステージごとの取組」項目案や「重点的な取組」項目案について事務局より説明し、委員からご意見をいただきました。

2 主なご意見等

（1）「ライフステージごとの取組」にかかるご意見

- ・「ライフステージごとの取組」の項目数・名称については、特にご意見はなく、事務局案を了承していただきました。

（2）「重点的な取組」にかかるご意見

- ・「重点的な取組」に関して、子どもへの支援は、子どもの貧困対策、児童虐待の防止、社会的養育の推進、発達支援が必要な子どもなど困難を抱える子どもに対するものばかりである。ポピュレーションアプローチのような、子ども全体への取組も「重点的な取組」に入れるべきではないか。それらは「ライフステージごとの取組」の中の「健全育成の推進」や「子どもの育ちを支える取組の推進」などに含まれるが、いろいろな項目の中に散らばって入っているので、分かりにくい。一つにまとめて、「重点的な取組」にしてはどうか。
- ・日常の生活において、外国人住民がとても増えていると感じる。今後5年間でますます増えてくることが考えられ、現行プランの「外国人住民が安心して出産・子育てができる環境づくり」が「重点的な取組」になってくるのではないかと思う。
- ・「外国人」という表現については、国籍、言葉が話せるかなどさまざまな捉え方があるので、表現の仕方を考えたほうがよい。日本人と外国人を明確に分けているようにも見える。
- ・「ライフプラン教育の推進」や「出逢いの支援」を「重点的な取組」から外すことについて、県民がノウハウを身に付ける仕組みができ始めているなどプラスの数値が出てきたということでは良いことだと思う。「重点的な取組」とはしないが、それぞれの取組を継続してレベルアップを図りながらやっていくということなので、そのあたりは情報発信するときに県民に誤解を与えないようにしてもらいたい。

(3) その他のご意見

- 地域で子どもを育てるという気運醸成において、独身の男性などが子どもたちと関わる機会が少ないということが課題として挙げられるが、次期子どもスマイルプランでは「縁」を大切にしていこうという中で、それらの人が得意なスポーツなどを通じて部活動指導員として関わってもらえることができるとよいと感じている。
- 総合目標は合計特殊出生率だが、合計特殊出生率が上がっても出生数は下がっている。スマイルプランは少子化対策計画なので、目標値を定めないモニタリング指標でもよいので、出生数や出生率を示してもらったほうが県民に分かりやすいと思う。